

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 厚見学園

校長名 都築 幸夫

| 市の重点課題 | 学校の重点項目 | 自己評価 | 達成状況 | 学校関係者評価委員会から | 改善の方向 |
|---------------------------------|--|------|--|---|---|
| 希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成 | ・小中一貫校として、3指導部体制を基盤とし、9年間の子どもの成長を見据えた指導を確立し、全職員が学校経営に参画する体制づくりを進め、実践を積み重ねる。 | A | ・小中一貫校として4年目に入り、英語教育を含めた9年間を見通した系統的な指導の在り方についてさらに実践を重ねることができた。 ・特に「ひびきあいの日」の取り組みを通して、人権意識の向上を図ることができた。 ・小学校図工については、中学校美術の専門的な授業を受けることができ、児童の教科への興味関心も高まっている。 ・小中授業交流会をすることで、児童生徒の姿をもとにして互いの指導力を見つめ直すことができた。 | ・小中一貫教育のよさや意義を一人一人の教職員が理解して学校経営に取り組み、子どもたちに還元してあげたい。 | ・小中一貫教育のよさを、一人一人の教師が自覚できるようにする。そのために、次年度は専門家による講演会を企画し、「小中一貫教育に取り組んでいる」という自覚や誇りをもてるようにする。そうした意識をさらに家庭・地域とも共有する。 |
| コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進 | ・新学習指導要領実施にあたり、主体的・対話的な学びをめざした授業改善を進める。「厚見スタンダード」の不断の見直しを進め、9年間の学びをつなげ、一人一人の力を伸ばす取組を進める。 ・CSの組織を生かし、地域人材をゲストティーチャーとして積極的に活用する。また、学習支援ボランティアによる授業支援などをさらに進める学びの質の向上を図る。 | A | ・学びの基盤としての「厚見スタンダード」の改善を図りながら、学習規律や生活力の向上に努めた。 ・学習支援ボランティアによる授業支援を推進し、つまずきのある児童生徒への支援や、家庭科等における作業の補助に役立てていただいた。 | ・「厚見スタンダード」の普段の見直しが必要。 ・研究主題の「対話」とうまく関連付けてICTの活用を進めるとよい。 | ・「厚見スタンダード」についてアップデートされる中で内容過多になっているところがあるため、精選をする。 ・研究主任と情報主任の連携のもと、「対話」場面の有効な活用方法について検証する。 |
| あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり | ・管理職を中心に、多様な働き方に対する配慮や、適正な労働環境の促進の働きかけを行う。 ・学年単位や指導部単位での創造的な取組を推進する。「まずはやってみる」を合言葉にし、成果を具体的な子どもとの姿で共有する。 | A | ・小学校においては、「月ごとの時間外在校等時間」の平均が昨年度と比べ8時間と大幅に削減できた。 中学校においては、・・・ ・コロナ禍をへて、真に児童生徒に意味ある活動を精選して実施した。例えば体育的行事においては、児童生徒・教師で種目を考え、実施することができた。 ・特に小学校においては、「価値ある体験活動」の項目において、93%の児童が肯定的な回答をしている。 | ・学校と地域の関係性については、変化は感じる。学校に必要な体制を求めていくことが、学校関係者、地域ともに大切である。 | ・地域の力(もの・ひと・こと)を効果的に活用しながら、子どもたちの「力」につながる取組を企画する。また、教職員の負担についても考慮に入れ、持続可能な取組みとなるようにしたい。 |
| 災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保 | ・安心安全な学校づくりのために、日常の安全点検に努める。様々な災害を想定した防災訓練を小中で交流しながら進める。「自分の命は自分で守る」という意識と行動力を9年間で高めていく。 ・いじめ対策監、生徒指導主事を核として、「どの子どもも安心して過ごせる学校」を目指し、小中連携、CS、PTCA、地域を巻き込んだチームでの指導をさらに強化する。 | B | ・様々な場合を想定した「命を守る訓練」を実施し、子どもたちの防災意識を高めることができた。 ・いじめ事案には、いじめ対策監を核とした校内のチーム体制を生かした対応を行うことができた。また、「いのちの教育」を連携して進めることができた。 | ・何でもタブレットを使えばよいというのではなく、効果的な活用について、さらに実践していただきたい。 ・一方でタブレットの活用について、マナーが守れない児童生徒が少数ではあるが存在している。 | ・タブレットの使用について、再度、教職員間で徹底するとともに、児童会・生徒会の機能を生かしてデジタルシチズンシップの育成を図りたい。 |

| | | | | | |
|-------------------------------|--|----------|--|--|--|
| <p>教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・財務処理を計画的に行うとともに、日常的な点検を充実し、校舎内外の環境整備に努める。 ・タブレットを活用し、ペーパーレスの取組を推進する。 | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安全に学校生活を送ることができるよう、日常の安全点検を確実に行うことができた。 ・複数でチェックをするなど適正な財務管理に努めた。 ・小学校においては、R6年度入学の児童(重度の障害あり)に対する合理的配慮の一つとして環境整備を適切に進めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も地域の防災訓練を実施することができ、中学生が主体的にボランティアに取り組んでいた。 ・告知なしや垂直避難を想定した「命を守る訓練」を実施した。日頃から子どもたちの防災意識を高めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携して防災教育計画を作成し、意図的な防災教育をさらに強化する。 ・ペーパーレスの一層の推進を図る。 |
|-------------------------------|--|----------|--|--|--|